

第10期生 猿渡崇人さんの近況報告



猿渡 崇人
(さるわたり たかと)

1981年 熊本県熊本市生まれ (36歳)
大分県企画振興部観光・地域局
観光・地域振興課 観光振興班



おんせん県おおいた
世界温泉地サミット

京都大学公共政策大学院の恩師の方々、各分野でご活躍の諸先輩方、そして同期・在学生の皆さん、こんにちは。第10期生の猿渡崇人と申します。

大分県からの長期派遣研修制度を利用し、職業人学生として2015年(平成27)4月～2017年(平成29)3月末まで在学しておりました。

在学中には、政治・経済、法律、統計分析、政策分析等様々な講義を受講したことで、地方自治体のどのような業務においても対応できる基礎力を強化できたと考えています。また、通常の講義のほか、研修の集大成となるリサーチ・ペーパーと人脈形成に積極的に取り組みました。

リサーチ・ペーパーでは、課題設定にあたり復帰後の実務に役立つ観点を意識したものとし、地方自治体の喫緊の課題である「地方創生」と住民目線での価値の創出を目指す「マーケティング」をいかに実践するかについて研究を進めました。また、人脈形成では、在学中の学生との日頃の交流はもちろん、教授のプロジェクトに参加するなど多くの人々と出会うよう努めていました。これらの知識、人脈は現在の職務にも活かすことが出来ています。

修了後は、県の観光施策を担当する観光・地域振興課に配属され、2018年5月25日(金)～27日にかけて大分県別府市で開催する「おんせん県おおいた世界温泉地サミット」の担当として、環境省とも連携を取りながらその開催準備に携わっています。温泉に係るサミットは世界初ということ、また、非常にタイトなスケジュールの中で事業企画の立案や調整を行う必要があるため、職場復帰当初は苦労しましたが、最近では社会人としての勤や時間感覚を取り戻しエンジン全開で業務に取り組んでいます。

また、公共政策大学院でお世話になった伊藤哲夫先生(元環境省自然環境局長)や佐伯英隆先生(元経済産業省通商政策局審議官)のお二方には、それぞれ温泉行政と国際会議のご経験を踏まえた助言をいただくなど、修了後にもご支援をいただいております。また、本年から大分県庁京都大学同窓会にも入会のお誘いをいただき、庁内の先輩方との交流も深めています。

この社会は、人間が創り動かしています。人間は「人」の「間」と書きますが、人間関係によって社会を動かし、インパクトを与えることが出来ると考えています。そうしたことから、同窓会組織である鴻鵠会にも積極的に参加し、損得勘定を抜きに、多くの先輩方との交流を深めていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

お仕事や勉強でお疲れの際は、日本一のおんせん県をご訪問ください！笑

○世界温泉地サミット HP

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10820/internationalonsensummit.html>

○大分県観光 HP

<https://www.visit-oita.jp/>